

本当の幸せについて考えてみる

周りの人の日やあたり前といわれている常識にそのまま従うのではなく、ときには、「それってホント？」と、立ち止まって考えてみること。それがコチコチにかたまつた頭をゆるめる体操になります。

経済の常識だと、GDP (Gross Domestic Product : 国内総生産) が少しでも下がれば政府はあわて景気回復に力を入れます。GDP がまた増えれば、すぐに世間も忘れてしまいがち。

でもちよっと待つて。“GDP” (イコール) “幸せ”なのでしょうか？ GDPは、物やサービスが売れてお金が動けば増えていきます。だから、犯罪や環境破壊が増えれば増えるほど GDP が増える、ということにもなるのです。

暮らしを vol.4 やさしくする エコな気持ち

枝廣淳子

“あたり前”ってなんだろう？

（GDPではなく、GNH (Gross National Happiness : 国民総幸福) を国々の進歩を測る指標に使っています。「国民の本当の幸せは、GNP (国民総生産)」では判断できない」という前国王の考

えからです。世界や国、地域、そして自分にとつて本当に大切なものは何なのか。今までの「常識」に固執しないで自分なりの判断基準を持ってみませんか。

水について考えてみる

私たち、水道の蛇口をひねればすぐに水が出てくる便利で豊かな暮らしをしています。でも、もし水道がなくなったらどうでしょうか？ 何百キロもの距離を水くみに行かなければいけなくなったら、それはとってもタイヘンなことですよね。

水はもともと小さな雨粒たち。天から雨が降って、葉に落ち、葉っぱをつたい地面にポタリと落ち

なって超過手当が払われる。環境破壊が進めば、環境を浄化するための機械や薬が必要になる。どちらもお金の流れを創り出しますから、GDPを押し上げます。人々の幸せにつながっているかいないかは関係ないのです。

アジアの発展途上国ブータンでは、GDPではなく、GNH

なって、雨粒たちが集まって小さな川になつて、川が流れて海とつながる。川や海の水などが太陽の光に照らされて蒸発し、雲ができるまで雨が降る——。水は、そのサイクルの中で時間をかけてできています。

蛇口をひねると、このお水はどこから来たんだろう？ って、一瞬思いを馳せてみませんか。目の前の水がとても愛おしく、大事にしたい！という気持ちが自然に湧いてくることでしょう。



枝廣淳子
えだひろ じゅんこ ●環境ジャーナリスト、翻訳家。東京大学大学院修士課程修了。(有)イーズ代表 (http://www.es-inc.jp/)、(有)チェンジ・エージェント会長、NGOジャパン・フォー・サステナビリティ (JFS) 共同代表。東京大学人工物工学研究センター客員研究員、環境ビジネスワーキング懇談会メンバーなどを務めるほか、執筆、講演、翻訳などを通じて環境問題に取り組んでいる。著書に『地球のおおし方』『地球とわたしをゆるめる暮らし』、訳書に『不都合な真実』『私たちの選択』などがある。